

1. 橋洗い

橋洗いは、市民が主体となって平成 17 年より行われており、年々拡がりを見せています。

平成 23 年度は、8 月 4 日（木）に戎橋（瓦版 第 8 号で掲載）、9 月 17 日（土）に中之島ガーデンブリッジ、9 月 23 日（金）に高麗橋、10 月 22 日（土）に久宝寺橋、11 月 3 日（木）に難波橋、11 月 13 日（日）に瓦屋橋において、橋洗いがそれぞれ実施されました。

高麗橋においては、橋洗いの後、地域の方から高麗橋に関する歴史や資料等の紹介も行われました。

▼ これまでの実施橋梁



▼ 中之島ガーデンブリッジ

（9 月 17 日実施）：約 250 名参加



▼ 高麗橋（9 月 23 日実施）：約 60 名参加



▼ 難波橋（11 月 3 日実施）：約 200 名参加



橋洗いに後に集合写真

▼ 久宝寺橋（10 月 22 日実施）：約 20 名参加



▲ 瓦屋橋（11 月 13 日実施）：約 35 名参加

2. ネットワーク型市民セミナー

難波市民学習センターにおいて、11月4日（金）に「なにわ八百八橋物語 ～橋に見る大阪の再発見～」と題して、ネットワーク型市民セミナーが開催されました。このようにネットワーク型市民セミナーを活用した橋に関する取組は、平成21年度より実施しており、今回は、85名の方々にご参加いただきました。

また本セミナーに合わせて、9月10日（土）～11月4日（金）に、同センターにおいて大阪の橋のパネル展示も行いました。

本セミナー受講者を対象に実施したアンケートでは、「非常に良かった」・「良かった」を含めて、9割以上の方から高い評価を頂きました。また自由意見として、橋の維持管理に対する事項や歴史資源としての価値の再認識などについてご意見頂きました。



▲ 講座の様子



▲ パネル展の様子

11月11日（金）には、セミナーに参加頂いた方の中から、25名の方々を対象に、中之島周辺の現地見学会を行いました。現地見学者を対象に実施したアンケートでは、「非常に良かった」・「良かった」を含めて、9割以上の方から高い評価を頂き、講座に引き続き好評で、水都大阪の魅力発見や他地域に架かる橋の解説の要望などといったご意見も頂きました。



▲ 現地見学会の様子

3. 「東京・横浜・大阪の橋 合同パネル展」

東京都、横浜市、大阪市は、歴史的な橋や特殊な橋を多く管理しており、様々な共通課題を抱えています。このため、(独)土木研究所と、3都市で「大都市圏における橋梁の保全・更新計画に関する協力協定書」を締結し、課題に対して取り組んでいます。「東京・横浜・大阪の橋 合同パネル展」は、このような取り組みの一環として実施するもので、市民の方々に橋の魅力を再認識してもらい、愛着を持って頂くことなどを目的としています。開催概要は、以下のとおりです。



- ・ 横浜市：平成 23 年 8 月 10 日（水） JR 桜木町駅前広場（瓦版 第 8 号で掲載）
- ・ 大阪市：平成 23 年 11 月 1 日（火）～30 日（水） 川の駅はちけんや
- ・ 大阪市：平成 23 年 11 月 1 日（火）～ 2 日（水） マイドームおおさか
- ・ 東京都：平成 23 年 11 月 21 日（月）～24 日（木） 新宿駅西口広場イベントコーナー
(瓦版 第 10 号で掲載予定)

大阪市会場のうち、「川の駅はちけんや」では、パネル展示に加え、天満橋・戎橋・難波橋・本町橋・堂島大橋・渡辺橋の当時の設計図面を展示し、「おおさか・橋・ひと」等の DVD の放映も行いました。また、水辺のまちづくり企画推進委員会（水都大阪の関連組織）による「水都再生 各都市の取り組み」パネルも同時に展示されました。「マイドームおおさか」での展示では、建設技術展 2011 (<http://www.kyokai-kinki.or.jp/kengi2011/top.html>) の会場で、パネル展示に加え、天満橋・本町橋の図面展示を行いました。



パネルの展示



図面の展示



橋 DVD の放映



パンフレットの設置

▲ はちけんやでの展示の様子

来場者を対象に実施したアンケートでは、「非常に良かった」・「良かった」を含めて、8割以上の方から高い評価を頂きました。その他に、「橋を見に散歩に行くのが好きになり、大変勉強になりました。」「東京や横浜の橋も知ることができ、良かった。」「大阪には魅力的な橋がたくさんあることを知らなかった。」「もっと多くの人にパネル展を知ってもらえた良い。」などといった貴重なご意見も頂きました。



▲ マイドームおおさかでの展示の様子

橋コラム

◇vol.2相合橋（あいあうばし）◇

相合橋は、1680年代に初めて架けられ、当初は新中橋または中橋とよばれていましたが、後に現在の「相合橋」と名付けられます。

昭和37年に木橋から鉄橋に架け替えられ、昭和58年には、幅員が両側に拡幅され、川の上に憩いの広場が設けられました。その後、耐震対策や道頓堀川水辺整備事業に併せた、整備が行われました。

水辺整備事業に併せた整備では、橋梁側面に、透過性を強調するため、高欄と一体となったアルミ色の桁力バーが取り付けられ、舗装や照明灯には、昔の雰囲気をかもし出すよう石材が使用されました。整備にあたっては、地元を含めた検討会の場で、デザイン案について検討や議論が行われました。今後は、地域のシンボルとして、地元の方々に愛され、利用される事を願っています。



▼ 鋼橋への架け替え当時



▼ 平成23年の整備後



▲ 昭和58年の整備時

～瓦版では、これから毎号「橋コラム」を掲載します。第2弾となる本号では、9月に改修工事が完了した『相合橋』を紹介しました。今後の「橋コラム」にもご期待ください！～